

6. 山羊飼養農場における衛生対策指導

大分家畜保健衛生所

○南部雪江・平川素子・病鑑 磯村美乃里・病鑑 大木万由子・病鑑 林拓己

【はじめに】

山羊の飼養頭数・飼養戸数は近年全国的に増加しており、当家保への飼養管理に関する相談件数も多い。一方、山羊関節炎・脳炎(CAE)は、CAE ウイルス(CAEV)によって起こる山羊の届出伝染病であり、日本でも散発的な発生がみられている。

今回、山羊飼養農場で衛生対策指導と CAEV 浸潤状況調査を行ったので報告する。

【発生概要】

当該農場は、山羊 42 頭を飼養。2021 年 7 月～9 月にかけて 9 頭の山羊が死亡したため、そのうち 2 頭の病性鑑定を実施。併せて飼養山羊全頭の CAEV 浸潤状況調査を実施。

【材料及び方法】

(病性鑑定)死亡山羊 2 頭(No. 1、2)を用い、定法に従い細菌学的検査、病理組織学的検査を実施。小腸内容及び大腸内容を用い寄生虫学的検査を実施。

(CAEV 検査)山羊 42 頭の EDTA 血を用い nestedPCR 法で CAEV 特異的遺伝子を検索。

(畜舎糞便検査)病性鑑定結果を基に浮遊法で畜舎内糞便の寄生虫学的検査を実施。

【検査成績】

(病性鑑定)剖検:[No. 1、No. 2]腸間膜リンパ節腫大。[No. 1]空腸及び回腸粘膜の暗赤色化、直腸粘膜の赤色化。[No. 2]空腸及び回腸の菲薄化、直腸粘膜の赤色化。

細菌学的検査:[No. 1、No. 2]主要臓器及び脳からの菌分離陰性。[No. 1]小腸内容で *Clostridium perfringens*(毒素型 D 型)を疑う菌を確認。[No. 2]小腸及び大腸内容で *Clostridium perfringens*(毒素型 D 型)を確認。

病理組織学的検査:[No. 1、No. 2]小腸から大腸にコクシジウム寄生。[No. 1]小腸で絨毛の萎縮、出血、壊死、グラム陽性大型桿菌を確認。大腸の小出血。[No. 2]小腸で絨毛の萎縮、出血。大腸に線虫を確認。

寄生虫学的検査:[No. 1、No. 2]コクシジウムのオーシスト検出。[No. 2]線虫卵検出。

(CAEV 検査) CAEV 遺伝子検査全頭陰性。

(畜舎糞便検査)7 畜房中 4 畜房で線虫卵及びコクシジウムのオーシスト検出。

【対策】

畜主に聞き取りした結果、畜舎の清掃頻度は 3 ヶ月に 1 度であり、直近で経口線虫駆虫薬を投与したのが 3 ヶ月前だった。そこで、清掃及び消毒手順を確実に実施するよう指導。1 頭ごとに確実に投与するために、外皮塗布剤を使用するよう指導。また、コクシジウム対策としてサルファ剤を投与するよう指導。

【まとめ】

山羊飼養農場で死亡が増加したため、病性鑑定等を実施した。その結果、寄生虫感染が認められたため、寄生虫対策及び飼養衛生管理を指導。また、CAE の清浄性を確認。今後も対策の効果を検証しながら衛生指導を継続していく。